

## 谷 口 成 之 (たにぐち しげゆき)

明治33年（1900）愛知県は現在の尾張旭市に生れる。明倫中学、第八高等学校を経て大正14年（1925）東京帝国大学土木工学科を卒業。直ちに都市計画愛知地方委員会に奉職。時あたかも東京、横浜において震災復興の都市計画事業が進行中であったし、大都市の郊外発展の時代を迎えていた。新たに町づくりに導入された土地区画整理は焼失した旧市街の再開発にも郊外の新市街開発にも力を発揮することになる。愛知地方委員会は技術の長に石川栄耀氏が居り、建築出身の中村綱、昭和3年からは兼岩伝一が之に加わって、実際に都市を建設する手法につき議論を斗わしたという。都市計画家として谷口はその出発の地点に恵まれたといふべきか。昭和5年長崎地方委員会に転任。当時の地方委員会の管轄ははなはだ手薄で、ようやく濃くなる戦時色の時節を9年間、この西の閥門を相談相手にも乏しい状況下で守り、昭和14年都市計画北海道地方委員会に転任。当時はドイツあるいは米国の影響をうけて、国内をも「国土計画」が風靡し、一方では工業の分散が、一方で



松 井 達 夫  
(跡都市計画協会顧問)

は在来の規模を遥かに超えた工業地帯の計画が考えられた。北海道もその適地と目され、谷口による壮大な計画図を筆者は記憶しているが、それを都市計画決定する暇なく、昭和17年心を残して谷口は東京地方委員会に転任。しかし、戦時中の仕事は、護国寺の大防空壕の掘さくであったという。戦後は東京都の戦災復興事業の責任者たる区画整理課長（昭和21年）、区画整理部長（22～31年）を歴任した。東京の復興事業は都心部は震災復興を既に経験しているので、周辺部を重点的に選び、また組合施行地区が多いなど特色があった。

昭和31年退官、日本道路公団、首都高速道路公団等の調査役を経て、昭和37年東海大学工学部教授となる。その前年コロナ社より教科書「都市計画」を出版、その改訂版は現在も世に歓迎されている。東海大学は49年病のため退職したが、その間多数の都県および市の各種審議会委員を勤め、38年には本学会名誉会員、39年には技術土木試験委員となり、46年勲3等瑞宝章を受章した。50年秋癌の手術、以後闘病生活を送ったが、59年について死去した。子息谷口丞（すゝむ）氏は2代目都市計画家である。